



『ながいながいよる』

マリオン・デー・パウアー/文
テッド・ルウィン/絵 千葉 茂樹/訳 (岩波書店)



冬の静かな森の夜。動物たちが長い夜が明けるのを待っている。姿を消した太陽を取り戻すのは誰なのか。カラス、ヘラジカ、キツネが名乗りをあげるなか、風はある動物に「あなたにしかできない」と語りかけ…。

『ひかるさくら』

帚木 蓬生/作 小泉 るみ子/絵 (岩崎書店)



薬売りの彦一は、山中で出会った病人たちに、持っていた薬をみんな分け与えてやった。山道で夜を明かすことにした彦一は、闇の中に、ぼうっとひかる、さくらの木を見つけて…。

『ぜつぼうの濁点』

原田 宗典/文 柚木 沙弥郎/絵 (教育画劇)



昔むかしあるところに言葉の世界がありまして、その真ん中におだやかなひらがなの国がありました。ところがある日の午下がりに、道ばたに濁点のみが置きざりにされていて…。幻冬舎刊「ゆめうつ草紙」初出の作品を絵本化。

『おばあさんのしんぶん』

松本 春野/文・絵 岩國 哲人/原作 (講談社)



新聞少年のてっちゃんに新聞を読ませてくれていた老夫婦。その、おばあさんが亡くなり、てっちゃんがはじめて知った事実は……。*

『光を失って心が見えた』

新井 淑則/著 (金の星社)



34歳で全盲になった中学校教師が、家族の励まし、視覚障がい的高校教師との出会い、周囲の人たちの支えによって復職を決意。養護学校、盲学校勤務を経て公立中学校教師に復帰するまでを自ら記したノンフィクション。

『ちいさなちいさなベビー服』

八束 澄子/文 (新日本出版社)



彼女たちが作りだすちいさなベビー服。それは亡くなった赤ちゃんを包みこむ、ぬくもりの服だった…。倉敷中央病院内のボランティア手芸サークル「グリーンはあと」の活動を紹介する。

『化けて貸します！ レンタルショップ八文字屋』

泉田 もと/作 (岩崎書店)



もしかして、おいらは見てはいけなものをみてしまった!? 舞台は江戸。損料屋(今でいうレンタルショップ)で、厳しくも温かい仲間にもまれて働く文吾は、ある日、お店の全員がタヌキという驚愕の事実を知ってしまい…。

『そらめうでてさてそこで』

今江 祥智/作 長 新太/絵 (文溪堂)



ふうむ、ちいとばかり早かったか。そんな独り言をいう庄左衛門の目の前に、表戸をぐいとひきあけて、顔をだした男がいます。おじいさまは今日も秘密のおでかけに…。



『グッドジョブガールズ』

草野 たき/著 (ポプラ社)



フツーじゃない。お互いに干渉しない、ドライで気軽な関係。だから、私たちは、「悪友」。そうって、本音を隠してきたけど…。12歳のほろ苦い友情を描いた物語。

『じっちゃん先生とふたつの花』

本田 有明/著 (PHP研究所)



夏休みに入って3日目。ぼくは近くの家のブロック塀に向かって「大魔球」を投げた。その瞬間から、ぼくとじっちゃん先生との夏が始まった。老人と少年の心の交流を描いた、さわやかな夏の物語。

『小さなコックさん』

八木田 宜子/作 吉川 聡子/絵 (講談社)



ある日ぼくは、ふしぎなコックさんに出会ったんだ。おばあさんとふたり暮らしの少年・シゲオが遭遇した人物には、たくさんの秘密がありました。*

『夜間中学へようこそ』

山本 悦子/作 (岩崎書店)



ひよんなことから、76歳の祖母のつきそいで、夜間中学へ通うことになった優菜。そこで出会った仲間たちとのかけがえのない日々…。どうして勉強するのか、なぜ学校へ行くのか。多感な中学生の目を通して描く。

『ひみつの校庭』

吉野 万理子/作 宮尾 和孝/絵 (学研プラス)



昔、植物園だった校庭の奥に、木戸があることを知った葉太。その先にはふしぎな植物と、思いがけないひみつが…。卓球小説「チーム」シリーズのコンビが贈る、植物(ポタニカル)ファンタジー。

『ぼくはこうして生き残った! 4』

ローレン・ターシス/著 河井 直子/訳
ヒョーゴノスケ/絵 (KADOKAWA)



2011年3月11日、東北地方の村をおとずれていた11歳のベンは、激しいゆれに驚く。しかも、ゆれがおさまると巨大津波が…。おそろしい状況から生還した少年の物語。緊急事態への対処のしかたがわかります。

『ノエル先生としあわせのクーポン』

シュジー・モルゲンステルン/作 宮坂 宏美/訳
佐藤 美奈子/訳 西村 敏雄/絵 (講談社)



先生が学校をサボっていい券をくれた! おじいちゃん先生が授業で「学校サボっていい券」、「宿題忘れていい券」など不思議なものを配った。だがおかげでなんだかぼくらは学校が好きになった。*

貸し出し中の本は
予約も出来ます。
詳しくは職員に
お尋ねください。

